



世界をより良いものとするために、
この国の基盤を設計・開発し、
運用し、改修する。

中野 芳崇
NAKANO Yoshitaka
大臣官房秘書課

これまでのキャリアをふりかえって

一度きりの人生だからこそ、この国に山積する課題解決を仕事にしたいと総務省に入省して20年。国の基本制度、社会のDX、地方創生など多様な政策分野で制度や情報システムといった社会の基盤づくりを通じた改革に従事しました。基盤を設計・開発するだけでなく、運用し、必要な改善を行う。総務省、各省庁、自治体、民間の同志たちと共に挑戦することを通じて、自分の武器も増えました。最近では、管理職として、決断力、包容力、育成力といった人間力が試される場面も増えていきます(引き続き修行中です)。そして、大きな改革には政治のリーダーシップが不可欠であり、現在は持てる力を総動員して大臣をお支えています。今後、AIの急速な発展、人口減少、国際情勢の激変などで世界は大きく変わり、一省庁の政策分野だけでは対応しきれない課題がこれまで以上に現れるでしょう。このパンフレットを手取る皆さんの出番です。



大臣室で、大臣とはいつもざっくばらんに打合せさせていただいています。



非常勤講師として学部とロースクールで立法学を教えています。(大学のマスコットキャラと)

2025～現在 松本デジタル大臣秘書官

松本大臣の担務はデジタル庁、デジタル行財政改革、行政改革、国家公務員制度、サイバー安全保障など多岐に渡ります。大臣の構想や意思決定を如何に制度やシステムとして落とし込んで実装し、社会の変革に結びつけられるか、日々挑戦しています。



担当する法案の国会審議

2022～2025 デジタル庁企画調整官、デジタル行財政改革会議事務局 企画官

アナログ規制見直し、法令関係のシステム開発、生成AIによる業務の効率化、デジタル時代の国・地方の仕組みの見直し等、数多くのポストを兼務。行政官、民間エンジニア、弁護士等、多様な人材を束ね、仕事を進める構想力や決断力が求められ、密度の高い成長機会に。

2018～2021 外務省在英日本国大使館 一等書記官

外交官としてEU離脱に揺れる英国の政治・行政を分析。英国の政治家、官僚、学者たちとお互いの国の課題や激変する世界について日々議論する中で得られたアイデアは帰国後も政策立案の種に。

2015～2018 内閣官房 まち・ひと・しごと創生本部事務局参事官補佐

各省庁、自治体、民間の多士済々の職員からなる地方創生の司令塔に。地方創生戦略の策定、地方大学振興の新規立法の立案等を通じて、ビジョンを構想して政策を実現し、現場の声を受けてそれを見直すという構想と運用の往復の重要性和醍醐味を学びました。

2013～2015 内閣官房 内閣総務官室 国会専門官

国会と内閣の結節点で総理・官房長官を直接お支えする貴重な経験。政治のリーダーシップを支えるため、行政官として自分はどういう付加価値を発揮できるのか、今の自分に足らざるものは何か、このときの経験は現在の大臣秘書官の仕事の礎にも。

2011～2013 英国留学(ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン、ヨーク大学)

英国の政治・行政の研究とともに世界中から集まる同級生たちと夜な夜な議論。議院内閣制発祥の地で日本を相対的に見られたことは、制度や政策は所与のものではなく、不断に設計し直される対象であるという考え方が根付く契機に。

2008～2011 総務省情報流通振興課、消費者行政課係長

初めてスマホが発売された頃。遠隔医療、テレワークの普及といった情報通信を使った各政策分野の横断的改革、新たな技術と通信の秘密等の法制度との整合等に取り組みました。技術の進展が制度の前提を揺さぶる現実を前に、制度設計そのものを問い直す経験は、10年後のデジタル庁でも自分の武器に。

2006～2008 総務省行政管理局企画調整課、行政手続・制度調査室

小さくて効率的な政府を目指す構造改革の時代。各省庁の人的リソース配分の見直し、行政不服審査法の大改正など、総務省ならではの府省横断的な仕事を通じて、行政官としてのイロハを学ぶとともに利害や立場の異なる関係者の合意を積み重ね、結実させることの難しさ面白さを学びました。



外交官時代に英国のスターマー首相(当時:影のEU離脱大臣)と。